照葉樹林の森に本来の人と森の関係を学ぶ

活動の紹介

照葉樹の活用を探る 綾町エコパークでの学び

AEONTOWA

鮫島采希 文化構想学部3年





早稲田農業サークルこだま副代表(2023年度) 南島原市視察(2023年) 富士見町・綾町視察(2024年) 早稲田ローカルフェスタ実行委員(2024年) 地域活性学会、里山ゼミ等に参加



AEONTOWA

リサーチセンター









座学から現場へ そこからの対話と学び

イオン環境財団寄附講座「サステナブルコミュニティ論」

座学



先進的な 事例に学ぶ

現地調査



イオンピープルとの ディスカッション



ディスカッション

プレゼンテーション



グループワーク



「里山(地域)」の「資源循環」とその「持続性」をテーマに 綾でも、さまざまな思考を巡らせる機会をもてた。

現地での学び

綾のイオンの森で先進事例に学ぶ

AEONTOWA







綾町視察では照葉樹林の活用や、これに基づく資源循環をテーマとした。エコパークセンターでは河野円樹氏によるエコパークサイト認定に至る経緯説明があり、さらに周辺の農業と併せて、イオンの森が自然共生サイトに認定されたことについても学んだ。翌日はイオンの森での育樹に参加し、里山を散策する中で、里山と日向夏農家などのとの繋がりをたどった。もちろん、地域のマックスバリューでは日向夏を使った商品を買い求めた。







里山と周辺農家が一体的に地域の環境保全に取り組むことの意義を知り、これが消費者に繋がっていることを知って「ありがたみ」を感じた。

現地での学び

ヒアリングから森の魅力を探り出す

AEONTOWA







観光名所となっている大吊橋を渡った先の照葉樹林では河野耕三先生による時代毎の樹種の変遷、樹種による木材の用途や木の実等の活用についての解説いただいた。最終日は「工芸まつり」にて、出展者の木工事業者にヒアリングを行い、自然資本を活用することを生業とする上で、森林保全が重要であることや、木によって異なる活用方法の知識を学んだ。これらの価値を見直すことが、サーキュラーエコノミーにもネイチャーポジティブにも良い。







広葉樹の資源利活用は古くから文化を育んできた。木の手触り、色味、質感は、プラスチックなどと違い「ここちよさ」を感じた。

綾町 循環マップ

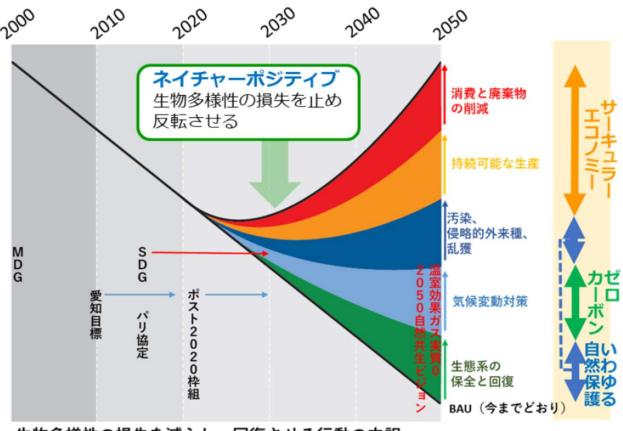
作成者: 河崎みの里, 五味廉太郎, 髙木沙也, 中澤拓馬,植田航,鮫島采希,丸山いっせい,古井茉香



座学での学び

生物多様性に「人」の多様性を入れて考える

AEONTOWA



生物多様性の損失を減らし、回復させる行動の内訳

地球規模生物多様性概況第5版GBO5(生物多様性条約事務局2020年9月) 令和5年11月環境省自然環境局自然環境計画課 生物多様性主流化室 資料より

ネイチャーポジティブ、つまり生物多様性の損失を止めると、カーボンニュートラルにもサーキュラーエコノミーにも良いことがある。この図が授業で説明されたけれども、わかりにくい絵だと感じた。

しかし、綾の自然との関わりや、地域での取り組みを視察して、純粋に生物多様性の回復に取り組むと捉えるのではなく、地域に住んで自然を守る人々の文化や生業の多様性も含めて守っていくんだ。と言い換えるとは、何だかわかりやすい気がした。

ネイチャーポジティブは 里山的な発想で守りながら 人々が活かす仕組みが必要







学び取ったこと

森の資源循環が地域の価値に

AEONTOWA

地域の循環の中で丁寧に 作られたモノに対するリスペクト その繋がりを知ったからこそ 生まれた感情や価値

ありがたみ

地域循環のバランスを保つ努力 大量生産では感じにくい特別感 木の温かみ、色味、重量 サステナブルで社会に良いという感覚 プラスチックのような人工物では 生まれない感情や価値

ここちよさ

人だけでなく森や地球にも良い 自然由来であるという安心感

適切な対価を支払いたい気持ち / 一つの物を永く大事にする気持ち

地域や自然を大切にしようという気持ちの源泉



地域資源の循環による製品は環境保全へのきっかけに

活動の紹介

照葉樹の活用を探る 綾町エコパーク

AEONTOWA







